

舞台『笑うボンバ』の開催にあたって

福祉活動の支援、福祉のまちづくり、コミュニティー作りが盛んな豊後大野市は、「よりそい、つながろう、あなたとわたし」を基本構想として掲げています。

その中に、健常者と障がい者と共に芝居を通じて表現ができたらいいなという思いから、第一回を豊後大野市千歳町にて、『石。ノスタルジア』と題しました舞台を開催し、360名の観客数で、大成功を収めることができました。これもひとえに、地元皆様方、ボランティアの方々、三重総合高校の演劇部の皆さん、そして陰で支えて頂いた多くの協力とお力添えがあったからでした。改めて心から感謝申し上げます。

ぶんどおの福祉とアートの日、という取組は一回で終わることなく継続こそ大事なのだと確認しあいながら進めたプロジェクトです。熱が冷めないうちに年内に第二回を開催すべくプロジェクトを立ち上げ、舞台公演を核としたアートと福祉の両輪で地域づくりを進めて参りたいと思います。この企画にあたり

ましては、千歳町出身、三重高校卒の^{たざきひさと}田崎尚登さん（福岡市在住）の脚本、

演出によるものです。今回脳性マヒのタレント・^{もり ゆうま}森裕生さんと一緒に芝居を演じます。森さんは、体が不自由でも自己表現への渴望は、健常者以上に持っています。指先だけでも動けば気持ちは伝わるし、話すことが出来なくても眼の力で表現することも可能です。必ずや観て頂ける方々の心を揺り動かすものになると確信しております。

今回は、盲目のピアニストの後藤杏奈さんも参加され、すばらしい演奏もお聴き下さい。

また、三重総合高校演劇部の部員さん、顧問の秋月先生がこの企画に賛同して下さいまして、一緒に演じることとなりました。健常者と障がい者の垣根を越えたところに、真の福祉が生まれると信じております。

これを機に福祉の輪が少しでも広がっていかれますことを念じております。

主催者 ぶんどおの福祉とアートの日実行委員会